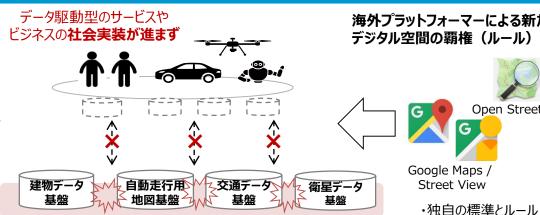
# 3次元空間情報基盤に関する検討(今後プロジェクト化を検討)

資料4

### 課題

- 人手不足やコロナ禍の影響で、人流減/物流・情報流増 が進むが、社会インフラが急激な変化に対応できていない。
- 特に、生活の質を保つため、機械(モビリティなど)が人手 を介在せず自律制御を行うための、高速処理に適したデジ タルインフラの必要性が高まっている。
- 他方、旧来の「業」「省庁」ごとにインフラが整備され、高」 ストでデータ提供が進まず、イノベーションの足かせに。
- このままでは、特定のプラットフォーマーへの依存率が高まり、 自由なデータの利活用が更に阻害されるおそれ。



空間情報に関する良質の基盤があるものの 人と機械が共に使いやすいデータ提供がなされず 海外プラットフォーマーによる新たな デジタル空間の覇権(ルール)争い



- •測地系、時間精度、…
- 道路、地物、コリドー、…

### 検討すべき内容

- モビリティや衛星、街中のセンサー等で取得される現実空間に関する異なるデータの組み合わせを容易にし、また、時間変化の情報を 正確に反映し、個別のサービスに必要な実空間情報だけを提供する仕組みとして、3次元空間の位置を一意に特定する「空間ID」 のユースケースやコンセプトを検討。
- 中長期的にはスマートシティの基盤として幅広いユースケースに対応できるよう、<u>ベース・レジストリや、関係するデータと紐付け</u>を進める。

### 検討体制

### 政府側体制

- IT総合戦略室 (デジタル庁)
- 経済産業省
- 国十交诵省
- 国十地理院

### 知見提供

(+)

- 空間情報サービス事業者
- 自律型モビリティ関連事業者
- ITシステムベンダー
- 標準策定などに係る業界団体

## 今後の主要スケジュール

• 2021年6月: 令和3年度成長戦略

2021年度: 3次元空間IDに関する検討会の立ち上げ

(ユースケース検討・コンセプト策定)

2022年度末: 3次元空間IDガイドラインVer1.0策定

(技術的な実装方式や管理ルールを策定)

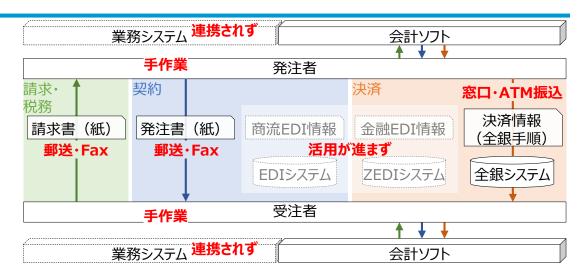
2023年~:ベース・レジストリなどと連携

• ~2025年: 3 次元空間ID 全国整備·国際展開

## 次世代取引基盤に関する検討(今後プロジェクト化を検討)

### 課題

- 人口減少時代の<u>ヒト・モノ・情報の流れの最適化のあり</u> <u>方を提示</u>が求められている。
- なかでも請求・税務、契約、決済といった一連の取引 フローについては、中小企業を中心に、<u>紙ベースの請求</u> <u>書や発注書が郵送・FAXによって送付されたり</u>、受領 した書類から会計ソフトへの入力において<u>手作業や</u> OCRが用いられるなど、電子化・データ化、デジタル化 や、それによる生産性向上が進んでいない。
- また、結果として企業間のデータを横断的に集約できて おらず、<u>新たな付加価値提供の機会が失われている。</u>



### 検討すべき内容

- 国際的な取引標準の活用、次期全銀システムとの連携、業種横断的な取引のデジタル化を見据え、データ利活用が実現される<u>ワンストップ次世代取引基盤の「あるべき中長期的な絵姿」の設計</u>
- 2023年に控えるインボイス制度導入等の状況を踏まえ、まずは発注から支払いまでが電子化・データ化され、さらには一気通貫に データ連携されることを目指し、短期的な解決策を検討。あわせて、<u>あるべき中長期的な絵姿を描く上で有用な実証対象を選定</u>
- 業界ごとの商習慣やEDI利用状況など現状を踏まえた中長期的な絵姿への移行プロセスの導出

### 検討体制

### 政府側体制

- IT総合戦略室 (デジタル庁)
- 経済産業省
- 金融庁



(+)

### 知見提供

- ・標準策定などに係る団体
- 金融機関
- Fintechベンチャー
- ITシステムベンダー

## 今後の主要スケジュール

- 2021年6月:デジタル社会の実現に向けた重点計画
- 2021年9月 : デジタル庁発足 (2021年度中の中間報告を目指し、今後DADC内で正式にプロジェクト化することも検討)
- 2023年10月: インボイス制度開始
- ~2027年:次期全銀システムにかかる仕様検討・開発